

●事例紹介●

# 地域と連携した実践型医学教育プログラム ～現代版「赤ひげ」の育成を目指した長崎県 五島列島における包括的保健・全人的医療 教育の実践～

（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科公衆衛生学分野教授）

青柳 潔

## 取組の趣旨

これまでの卒前臨床医学教育は大学病院を中心として行われてきた。しかしながら、大学病院の機能は高次・専門医療であり、大学病院での実習では、いわゆる「よく遭遇する病気：common disease」に接する機会が少ないことが問題点としてあげられている。また、医学的検査が進歩したことにより、検査データ中心の医療となつてしまい、病める人を全人的に診ないようになつたとの指摘もある。一方、医学教育成果に関する学部内委員会において、全学生に対する離島における実践体験教育の導入の必要性が指摘

された。

離島は人口規模が小さいため、人々の暮らしと密着した健康像と保健・医療・福祉体制を身近に感じることができ、かつ中核病院と近隣診療所がコンパクトにまとまり有機的に連携していることから、学生が包括的保健を理解しやすい点で都市部にはない利点を有しているとも考えられる。また、離島では専門医不足が深刻であることから、プライマリケア主体の医療が行われているため、離島の医師は全人的医療を理解・実践していることも特徴である。このように、本土とは違った特性を有しているため、離島においては、地域に強く密着した保健・医療体制と独自の広域医療ネットワークが構築されており、地域保健、地域医

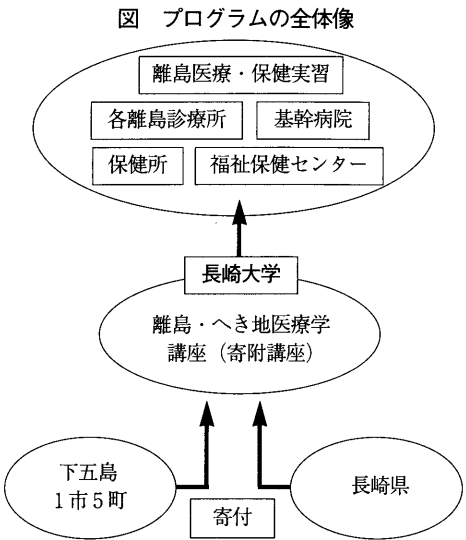
療を学ぶことを通して包括的保健・全人的医療教育を行うのに最適なモデルである。

長崎大学医学部の教育目標は、「『医学を学ぶ』、『科学を学ぶ』、『人間を学ぶ』」である。離島での実習は医学、科学を学ぶことはもちろんであるが、医師としての社会的責任感、倫理性および自律性の確立（人間を学ぶ）に繋がり、教育目標に合致するものである。

平成一六年、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科に「離島・へき地医療学講座」が長崎県および関連する五島列島所在一市五町により寄附講座として開設された。その活動拠点として、長崎県離島医療圏組合五島中央病院（五島列島福江市）内に「離島医療研究所」が設置され、長崎県と長崎大学との離島医療連携の拠点となつている。今回の学生離島医療実習・地域保健実習では、この「離島・へき地医療学寄附講座」も医学教育研究という側面からその一翼を担っている。このように、本取組は長崎県および関係医療・保健機関の全面的支援を受けて実施している（図）。

## 【目的】

本医学部では、病める人と良好なコミュニケーションが



でき、病気を診るだけでなく病める人の心とおかれている環境を洞察しつつ（全人的医療）、病気を治療するだけでなく医療チームや家族と力を合わせ、患者の家庭・社会への復帰や社会の偏見を克服して患者の社会参加を真摯に目指す（包括的保健）医師を育成することを教育理念としている。こうした全人的医療と包括的保健を実践できる医師こそ二一世紀に求められる医療人であり、人間味あふれた現代版「赤ひげ医師」とも言える。本取組は、本医学部の

教育理念に基づいた過去の取組実績の延長線上に位置づける高年次実践型臨床実習であるとともに、地域（離島）医療に貢献できる医療人の育成という地域の切実な要請にこたえる点で他に類例のない特色的なものである。離島実習を通して現代版「赤ひげ医師」を育成することが、本取組の目的である。

【実施】

(一) 方法

- ・医学部五年次に七〜八人一グループずつ五日間の離島医療・地域保健実習を行う。
- ・二班（A、B）に編制し、それぞれ離島医療実習と地域保健実習にあたるが、前半と後半で実習内容を交代する（表）。

(二) 指導体制

- ・地域保健実習では五島保健所長、福江市保健センター長が臨床教授として公衆衛生学分野教官とともに指導を行い、地域医療実習では五島中央病院長、富江病院長、三井楽診療所長、玉之浦診療所長が臨床教授として総合診療科教官とともに指導を行う。

表 実習スケジュール

A班（医療実習：月・火、保健実習：水・木・金）、B班（医療実習：水・木、保健実習：月・火・金）

実習日	午前		午後	
	担当部署	実習内容	担当部署	実習内容
1日目	月	三井楽診療所 玉之浦診療所 (岐宿診療所)	三井楽診療所 玉之浦診療所 (岐宿診療所)	在宅医療・介護の 実際
2日目	火	五島中央病院 富江病院 (奈留病院)	五島中央病院 富江病院 (奈留病院)	tele-medicineと遠 隔診療支援システ ム
3日目	水	五島保健所	五島保健所	環境保健、感染 症・結核
4日目	木	福江市保健セン ター	福江市保健セン ター	成人保健 アルコール問題
5日目	金	五島市社会福祉 協議会	移動（福江→長崎）	

- ・地域保健実習と地域医療実習の指導体制全般を、おのこの公衆衛生学分野と総合診療科の教授が統括する。
- (三) 実習内容・スケジュール
  - ・二つの班（A、B）が地域医療実習と地域保健実習を前半と後半で入れ替わる形で実施する。
  - ・表は、前半が地域医療実習、後半が地域保健実習の場合である。

【目標】

(一) 一般的目標 General Instruction Object, GIO

- ・地域住民の健康や疾病と生活環境との関わりを理解し、健康に関わる問題を解決する考え方の基本を身に付ける。
- ・地域医療・地域保健実践の場で必要とされる知識、情報収集能力、マネージメント能力についての基礎を身に付ける。
- ・保健・医療・福祉の役割を把握し、相互の連携についての理解を深める。
- ・地域住民の心理的・社会的・経済的背景を正確に理解し、全人的医療実践の基本を身に付ける。

(二) 個別行動目標 Specific Behavioral Object, SBO

- ・中核病院の先進医療とプライマリケアを中心とした診療所での診療の両方を体験し、中核病院と診療所との密接な連携についての理解を深める。
- ・tele-medicineを活用した診療支援システムを把握し、広域医療ネットワークでの離島救急医療についての理解を深める。
- ・診療所外での診療・介護を実際に体験することで、地域医療における在宅医療・介護支援の重要性を理解する。
- ・地域保健実習を通じて、地域における保健所の役割や保健医療システムを理解する。
- ・地域住民の健康像・疾病像が生活環境や保健システムに密着していることを理解する。

期待できる成果

長崎県は日本でもっとも多くの離島を有している。当然これら離島における医療の充実は最重要課題のひとつであるが、現実的には医療の高度化に伴う医師の都会志向、大病院勤務志向の中にあって、定数の充足もままならないの

が実情である。離島での医療活動の充実のためには、そこでの医療活動を支える人材の養成が急務であるが、これまでに地域における医療の担い手としての動機付けを行う体系的な医学教育は不十分であった感がある。将来の医療を担う学生に医療過疎の現場を直接肌で感じさせる本カリキュラムの意義は大きい。

一方、医療事故の頻発や医療訴訟の急増など、医療現場における医師の未熟な倫理性や専門技術偏重に基づく様々な問題がクローズアップされている。高い倫理性とプライマリケアを通じた全人的医療が二一世紀社会の国民の要請となっており、医学部はそのような医療を担う人材の育成を求められている。

本取組を通して、離島医療に中長期的に従事する医師の増加が期待されるとともに、個々の学生の卒業後の進路の如何にかかわらず、それぞれの現場・地域で国民に信頼される全人的医療の担い手、すなわち現代版「赤ひげ医師」となるための動機付けを図ることができると確信する。

#### 学生の意見・感想

「患者さんとのやりとりも単に疾患のことにみに留まらず、日々の生活のことを聞くなど明るい雰囲気だった。患者さんの疾患だけにとらわれることなく、本人の性格や日常生活環境といったその患者さんを包括的に診るいわゆる全人的医療を目の当たりにし、本来の医療のあるべき姿を再認識させられた。地域に根ざした医療活動というものに魅力を感じた」や「保健師さんに教えて頂きながら、問診を取った。健康な人の一人ひとり、健診に対する思いや、病気に対する不安度など、ぼろっと漏らす一言が興味深かった。健康な人や保健師さんの仕事など、病院にいてはみられない仕事を見ることが楽しかった。健診では、医師はさつさと検診車に向かって、舞台裏を見ることはないだろうから、いろんな場所を見る機会があつてよかった」等、学生の感想の多くは、本取組に肯定的だった。